

Juichi WAKISAKA Race Report

2013 AUTOBACS SUPER GT Round 8 -MOTEGI GT 250KM RACE-

◆◆ 丁々発止の戦いを繰り広げ、4位で最終戦を終える ◆◆

| No. 39 DENSO KOBELCO SC430 | | |
|----------------------------|------------|-------|
| Drivers | Qualifying | Final |
| 脇阪 寿一 / 石浦 宏明 | 5位 | 4位 |

開催日：2013年11月2日-2013年11月3日

サーキット：ツインリンクもてぎ（栃木県芳賀郡、コース全長：4.801km）

レース距離：53周（254.473km）

入場者数：予選日14,500名、決勝日30,000名、合計44,500名

ついに迎えた2013SUPER GTシリーズの最終戦。今年8度目の戦いの舞台は、ストップ&ゴーのレイアウトを持つ栃木・ツインリンクもてぎとなる。今シーズンのシリーズチャンピオンが決定する「MOTEGI GT 250km RACE」において、タイトル獲得の可能性を持つNo.39 DENSO KOBELCO SC430は全身全霊の闘いに挑むこととなった。

土曜日朝の公式練習でまず3番手の好タイムをマーク、手応えあるスタートを切ったDENSO KOBELCO SC430。午後からの予選ではQ1に脇阪が出走。見事4番手のタイムでQ2への進出を果たした。Q2には石浦宏明選手が出走。ここで5番手の順位を手に入れ、決勝に挑んだ。

迎えた日曜日の決勝。薄曇りながら終始安定したコンディションの中でレースは進み、序盤から激しいポジション争いを繰り広げる。緩急をつけた攻めの走りを披露するもの思うようにポジションアップはできなかったが、後半もしぶとく粘りのレースを続け、次第にポジションアップ。4位でチェックカードフラッグを受けている。



■ 11月2日(土)

09:00-11:00 公式練習

14:15-14:30 ノックアウト予選 (Q1)

15:00-15:12 ノックアウト予選 (Q2)

【公式練習】 3番手 / 1'42.194

薄曇りの朝を迎えた土曜日。午前9時、まずは気温13度、路面温度17度の中で公式練習が始まった。幸い、次第に空が明るくなり、風もなく深まる秋の日差しを浴び、セッション終了時には気温18度、路面温度21度まで上昇する状況だった。

開始からしばらく時間を置いて No.39 DENSO KOBELCO SC430 がコースイン。まずは石浦選手がステアリングを握った。合同テストでのデータを元にセッティングの微調整を繰り返しながら走行を続けた石浦選手がひと仕事終わると、脇阪へとスイッチ。クルマのフィーリングを確かめるとともに引き続き、セットアップの作業を行うなど、ふたりとも精力的に作業を進めていくこととなった。

その後、GT300 専有走行を経て GT500 専有走行に入ると、脇阪から先にコースイン。午後からのノックアウト予選・Q1 をシミュレートしたセットで走行を行うなどして順調にメニューをこなした。結果、No.39 DENSO KOBELCO SC430 としてのベストタイムは1分42秒194となり、3番手で公式練習を終えている。



【ノックアウト予選 (Q1)】 4番手 / 1'42.062

午後に入ってももてぎの上空には引き続きどんよりとした灰色の雲が広がる。気温もさほど上がることもなく、Q1のセッションが始まった。ひと足先に行われたGT300のQ1で一度赤旗が提示されたことで、GT500のQ1は予定より4分遅れの午後2時19分からとなる。気温17度、路面温度の20度の中、No.39 DENSO KOBELCO SC430に乗り込んでコースに向ったのは、脇阪。多くのライバル同様、セッション開始から7分ほど過ぎた頃にコースへと向った。

朝の公式練習でセットアップに手応えを得ていたことから、脇阪は渾身のアタックを披露。計測3周目には1分42秒062のタイムを叩き出し、トップに躍り出る。さらにアタックを続けた脇阪。セクタータイムでも自己ベストを塗り変える躍進を見せ、さ

らなるタイムアップに期待がかかった。だが、タイヤコンディションのピークとの兼ね合いもあり、刻んだタイムはベストタイム更新には至らず。しかしながら4番手のタイムで見事Q1を突破、石浦選手へとバトンをつなげた。

【ノックアウト予選 (Q2)】 5番手 / 1'41.598

Q2のセッションは午後3時5分にスタート。気温、路面温度ともにQ1とほぼ変わらなかったが、日暮れが近づき、タイヤマネージメントがやや難しくなると思われる中でアタックが行われることとなった。8台中、4番目にコースインした石浦選手は丁寧にタイヤを温めながらアタックのタイミングを見計らう。そしてアタックラップで刻んだタイムは1分41秒598で5番手。トップから0.2秒、4番手からは僅か0.016秒という惜しい結果となった。

今シーズン最後の公式戦を迎えた脇阪は予選を振り返り、「朝の公式練習ではいつになく色々と感じた点を確認しながら走りました」とコメント。結果、納得のいくクルマで予選を戦うことができたという。「公式練習でしっかりやることをやったので、Q1のアタックは精神面でかなり楽な状態で走ることができました」とした上で、決勝に向けてもポジティブな戦いができるかと手応えを得たことを明らかにした。



■ 11月3日(日)

08:50-09:20 公式予選 (09:30-09:45 サーキットサファリ)

13:30- 決勝 (53周)

【フリー走行】 2番手 / 1'43.886

決勝日を迎えたツインリンクもてぎは早朝から霧に包まれ、午前8時50分からのフリー走行前には、ライトオンのボードが提示された。幸い、コンディションは快方に向い、何事もなく30分のセッションを終えてその後恒例となったサーキットサファリが行われた。

No.39 DENSO KOBELCO SC430 には、まず脇阪が乗り込みコースへ。気温は14度、路面温度は17度と前日の公式練習とほぼ同じコンディションの中で周回を重ねていった。早々に1分43秒886のタイムをマーク、2番手につけたあとも安定したラップタイムを刻み、石浦選手へと交代する。石浦選手はその後のサーキットサファリでも走行を重ね、決勝に向けての準備を順調に進めた。



【決勝】 4位 / 8ポイント獲得（シリーズポイント：49ポイント、シリーズランキング：7位）

午後に向う頃には、少しばかり日差しも出て気温も上昇。深まる秋の晴天に恵まれた。通常より30分早くスタート時間を迎えた今回、午後1時30分に250km、53周にわたる戦いの幕が切って落とされる。気温20度、路面温度26度の中、5番手からスタートしたNo.39 DENSO KOBELCO SC430には脇阪が乗り込んでいる。ポジションキープでオープニングラップを終えたが、次第に前後車両との攻防戦を繰り返したため、序盤に思うようなペースでの走行が行えず。結果、想定していたよりも厳しい展開になってしまった。だがハードな状況の中でも絶えず脇阪は攻めのスタイルを貫いた。また、タイヤのピックアップも見られたが、そんな中でも我慢の走りを見せて19周終了時にルーティンワークのため、ピットイン。石浦選手へとスイッチする。

なお、同じタイミングでピットインするライバルたちも多く、ピット作業も戦いにおける重要なポイントとなったが、チームスタッフも迅速な作業で応戦することに成功している。これで勢いにのったNo.39 DENSO KOBELCO SC430は、早速石浦選手がハイペースで周回を重ねていく。そしてGT500全車がピットインを終えると、No.39 DENSO KOBELCO SC430は5番手のポジション。さらに1台、1台と丁寧にかわしていき、32周目にはNo.17 HSV-010と4コーナーから5コーナーにかけて攻防戦を繰り返して、見事逆転！3番手へと躍り出た。

だが、終盤に入るとタイヤのピックアップも影響し、ペースアップが難しい状態となって再び3番手争いが激化する。結果、17号車の先行を許すことになり、4番手へ。さらには、38号車、36号車らSC430勢同士のバトルも激化。一触即発に近いタフな戦いを強いられた。何としてもポジションアップを、と懸命に前を追い立て、後方の追撃をシャットアウトし続けた石浦。最後の最後まで緊迫した展開は変わることなく、惜しくも表彰台まであと一歩及ばず。結果、No.39 DENSO KOBELCO SC430は4位でフィニッシュ。シリーズランキングでは49点を獲得、ランキング7位で2013年の戦いを終えることになった。



今シーズンの公式戦を終えた脇阪。「予選ではタイヤをしっかりと選んでアタックできたこともあり、いい方向に向うことになりました。決勝ではどうしてもタイヤのピックアップは避けられないと思ったので、最短でのピットインを想定した戦略でレースをスタートさせました。幸い、ライバル達もほぼ同じタイミングでピットインすることとなり、交代した石浦選手がハイペースで頑張ってくれました。うまくいけば表彰台も可能だったと思いますが、なかなかレースとして難しい展開になってしまいました」と週末の戦いを振り返った。一方、今シーズンに対しては「シーズン後半戦を迎えるまでにしっかりとポイントを獲得しておきたかったのですが、それが思うようにならず、厳しいレースも多かったですね。ただ、チームで2年目を過ごし、感じているのはコミュニケーションがスムーズになり、成長出来た点が多かったことです。今後に向けてますます強くなっていい戦いができるよう頑張りますので、これからも応援よろしくお願いします」と力強くコメントを締めくくった。

特別戦 JAF GP FUJI SPIRINT CUP は、11月23日(土)-24日(日)に富士スピードウェイ（静岡県御殿場市）で開催される。

【Photo Gallery】



